文京学院大学人間学部研究紀要 Vol. 19, pp. 123 ～ 133, 2018. 3

アメリカ・ロサンゼルス市における中米系移民の社会統合
―移民支援団体ネットワークの役割に着目して―

小林　宏美*

アメリカ合衆国（以下，アメリカ）ロサンゼルス市には大規模な中米系移民コミュニティが存在する．この中米系移民コミュニティは，1970 年代から 80 年代にかけて祖国での内戦や経済的困窮を逃れてきた移民たちが定住し発展してきた．本稿では，ロサンゼルスの中米系移民のホスト社会における社会統合の過程において，移民たちの係わる社会関係や社会的ネットワークの役割に注目して，移民たちの統合のあり方を検討した．分析の視点として，移民システム論を援用し，移住の過程を促進するミクロ構造に注目した．ロサンゼルスの中米系コミュニティの社会的ネットワークを構成する諸機関・団体は，それぞれの団体の設立経緯や目的に即した特徴や得意分野があり，ある程度の活動の棲み分けが見られた．また，団体間の連携協力関係も見受けられた．調査地のウエストレイク・コリアタウン地区においては，これら諸機関・団体による社会関係ネットワークが，ホスト社会での中米系移民たちの生活を支える重要な役割を果たしていることが明らかになった．今後の課題として，移民の側に焦点を当て，彼らの社会関係ネットワークの利用状況などについても検討してきたい．

Key words：ロサンゼルス，中米系移民，社会関係ネットワーク，ミクロ構造

1. はじめに

1.1　問題の設定

ロサンゼルス市には大規模な中米系移民コミュニティが存在する．本稿では，ロサンゼルスの中米系移民のホスト社会における社会統合の過程において，移民たちの係わる社会関係や社会的ネットワークの果たしてきた役割に注目して，移民たちの統合のあり方を検討していく．なお，本稿で対象とする中米系出身者は，アメリカに居住し「ラティノ（Latino）」あるいは「ヒスパニック（Hispanic）」と呼称される人々で，そのルーツを中南米に辿ることができる人々を指す．「ラティノ」あるいは「ヒスパニック」は，人口統計上一括りにして捉えられる傾向があるが，その内実は非常に多様である．彼らは「スペイン語」という言語と「カトリック」の信仰という共通のアイデンティティを有するが，「ラティノ」という均質集団があるのではなく，メキシコ系，エルサルバドル系，グアテマラ系，その他のスペイン文化圏を出自とする様々なエスニシティが存在する．本稿では，文脈に応じて「中米系移民」「ラティノ」という用語を使い分けていく[1)]．

1.2　分析の視点

本稿は現地調査に基づく論考であるが，その分析にあたって，「移民システム論（migration systems theory）」を援用する．移民システム論で

＊人間学部コミュニケーション社会学科

は，移住の過程をマクロ構造とミクロ構造の相互作用の結果として捉える（Castles, and Miller, 2011 = 2009; Stalker, 1994 = 1998; Portes, and Rumbaut, 2014; Massey, Alarcon, Durand, and Gonzalez, 1987）．マクロ構造は，グローバルな政治経済，国家関係，移民の定住を管理するために制定された法律・制度・慣習などで規定される．ミクロ構造は，定住を促進するために移民自身が展開するインフォーマルな社会的ネットワークで規定される．マクロ構造とミクロ構造の2つの間には,「メソ構造（meso–structures）」と呼ばれる中間メカニズムが存在している．例えば，雇用斡旋業者，各種代理店，密入国斡旋業者など，移住の過程に関わる仲介業者がそれに相当する．

ミクロ構造の具体例として，先に移動した者が次の移民につながる「連鎖移民（chain migration）」が挙げられる．移民の先駆者は，パスポートやビザの準備など渡航手続きや住宅の確保を自分自身の力で行わなければならない．しかし，後に続く者は，先駆者の助けを得てより容易に移動することができる．いわば，国境を越えた「トランスナショナル・ネットワーク」が形成されているのである．さらには，移民が出身国からホスト国へ移動した後に，一定期間を経て帰還し，再びホスト国へ循環的に移動する「循環移民（circular migration）」と呼ばれる人々の存在も指摘されている（Massey, 1987; Castles, and Miller, 2011 = 2009）．

特定のエスニック集団が集中する「飛び地」で，経済的にほぼ自己完結している「エスニック・エンクレイブ（ethnic enclave）」もミクロ構造の具体例といえよう．そこでは，ホスト社会で起業する際の資金の工面，起業後の分業体制で同胞の援助などが期待できる．新来の移民たちは，エスニック・エンクレイブ内のエスニック企業で働きながら，同胞のネットワークに参加していくことで徐々にホスト国での基盤を形成していく．例えば，ロサンゼルスのコリアタウンは1マイル四方の地区に，数多くの韓国系移民がレストラン，マーケット，銀行，不動産，ショッピングセンター，輸出入関連企業などの事業を展開している（Portes and Rumbaut, 2014: 40–43）．

2. 研究の対象と方法

本稿の調査地は，ロサンゼルス市にある中米系移民コミュニティのウエストレイクおよびコリアタウン地区である．本稿の分析は，2011年2月から2017年9月にかけて，著者がほぼ毎年現地の教育機関や移民支援団体，教会などの組織を訪問調査し収集したデータに基づく．学校については，管理職やバイリンガル・コーディネーター，教員，移民支援団体については団体代表やスタッフ，教会については司祭や窓口となるスタッフにインタビュー調査を実施した．表1は，訪問調査した団体機関の概要を整理したものである．同じ団体や教育機関でも複数回の訪問調査を行っているケースもある．その他に，団体から紹介してもらった地域住民への聞き取りも行った．インタビュー対象者は32人（女性21人，男性11人）で，うち数名は2回行った．インタビューは半構造化形式で実施し，ICコーダーで録音し文字起こしをした．本稿では，団体機関名および人名は原則として仮名を用いた．

3. ロサンゼルスにおける中米系移民増加の背景

1940年代から60年代にロサンゼルスに来た中米系移民は比較的少なかった．ロサンゼルスに全米有数の中米系移民コミュニティが発展した要因は，1970年代から80年代にかけての南カリフォルニアで起きたダイナミックな人口・経済・政治変動の文脈で捉えることができる．人口的な要因として，1965年移民法が成立し，「家族の再結合」と「移民志願者の職能・技能」に基づいた受け入れ優先枠が設定された結果，ヨーロッパからの移民が減少したのに対し，アジアとラテンアメリカからの移民が増加した[2)]．その多くがロサンゼルスを目指した結果，ロサンゼルスの人口構成を変化させたのである．

経済的には，ロサンゼルスで産業構造の再編成が展開され，自動車産業やゴムタイヤ産業など伝統的な製造業が著しく衰退する一方で，航空宇宙産業や電子産業などハイテク産業が成長し雇用を

表１　移民の社会関係ネットワークを構成する諸機関・団体

	設立年	理念・使命・方針	事業・活動内容・プログラム	運営資金・財源	特徴
フォーマル・ネットワーク					
E 小学校	1992 年	地域コミュニティとの協働	K–5 学年（幼稚園～ 5 年生）EL 生徒への二言語教育プログラム	連邦政府および州政府の教育予算	2016 年度，823 名在籍中 94% がラティノ児童，EL 生徒 73%
C 小学校	1909 年	学校の規則を守り，他者に対して敬意を表する．自分の行動に責任をもつ．他者との違いを理解する．自分と他者に対して正直である．	K–5 学年（幼稚園～ 5 年生）EL 生徒への二言語教育プログラム	連邦政府および州政府の教育予算	2016 年度，在籍者数 513 名中ラティノ 49%，アジア系 39%, EL 生徒 44%
B 高校	1923 年	大学やキャリア生活，地域社会への参加に備え，社会の生産的な成員になる．	9–12 学年（9 ～ 12 年生）EL 生徒への二言語教育プログラム	連邦政府および州政府の教育予算	2016 年度，994 名在籍（内ラティノ 85%），EL 生徒 41%
I 宗教施設付属小中学校	1918 年	カトリック教の教義に基づく教育理念．子どもの心身の健全な発達およびカトリックの指導的立場に必要な能力の育成	K–8 学年（幼稚園～ 8 年生）国語やコンピューター学習の重視．祈りの時間, 学校ミサ，キリスト教奉仕活動への参加	カトリック教育基金，民間財団法人	西部地区私立学校大学協会認定校．ほぼ 100％の子どもが奨学金を獲得し高校に進学．卒業生の 90％が大学に入学を許可されている．
インフォーマル・ネットワーク					
P 団体	2005 年	全ての子どもに質の高い教育を保証する公教育制度実現のために学校と協働する保護者や保護者組織を結びつけエンパワーする．	アジア系, アフリカ系, ラティノの公正実現，教育アクセスの課題に焦点化．共通教育課題に関する討議のための会合を月 1 回開催		アジア系，アフリカ系，ラティノ出身生徒の教育達成という政策課題実現のために個別の保護者組織が連携することを目的に始まった．
F 教会	1877 年	あらゆる人の固有の価値と尊厳の尊重，人間関係における公正・公平・思いやりの尊重，信徒集会における精神の成長の促進と互いの受容，自由で責任ある真実の探究	移民の権利，結婚の平等な権利，労働者の権利，飢えとの闘い（食料配給プログラム）	市民の寄付，同一教派組織の基金	女性の参政権獲得運動を長年続けていたセェヴァランス夫妻によって設立された．1980 年代中米紛争時には，教会の施設をシェルターとして避難民に開放．
I 教会	1909 年		付属の学校経営	寄付金他	カトリック教会で英語とスペイン語のミサが行われ，ラティノ住民が多く参加する．
R 診療所	1983 年	「保健医療は人権である」という理念のもとに，医療の行き届かない地域住民に質が高く手頃で文化的に配慮した保健医療を提供	歯科，精神保健を含む幅広い保健医療サービスを市民権のない者にも提供．健康教育，地域の支援運動		E 団体により設立された．2017 年現在，ロサンゼルス市内に 3 つの診療所がある．
C 団体	1983 年	団体設立当初の使命は，エルサルバドル内戦の終結と避難民救済および支援で，1992 年以降，移民制度改革や若者支援にシフト	ユースセンター，ペアレントセンター，英語クラス，市民権取得を目指したクラス，弁護士による法律相談	財団およびロサンゼルス市の助成金．建物補修費用は資金集めキャンペーン	エルサルバドルの政治的避難民の安全を確保することを目的に設立された米国で中米系移民最大の権利擁護団体．
E 団体	1981 年	移民とくにラティノが，アメリカ市民として完全に参画していくために，政治経済的福利の向上を促進	市民権取得の法律相談や申請書記入方法の指導，政治的庇護希望者の手続き，DACA 支援等の法律相談．1983 年，R 診療所を設立	ロサンゼルス市や弁護士協会, 国連, 教会, 銀行，議会から助成金	エルサルバドル難民を支援するために全米ではじめて設立された．利用者数は週に 50 人～ 100 人の間である．
H 団体	1986 年	移民を完全に包摂する公正な社会の達成	弁護士による法律相談．DACA 更新手続き，政策アドボカシーの促進による移民の人権擁護，有権者登録の啓発活動，ホットライン．	財源は一般からの寄付や会員の会費，開発部門が助成金を獲得した基金	IRCA の結果増加した非合法移民を不法に雇用する雇用主に対応するために設立．
U 団体	2002 年	公立大学は市民のためにあり，あらゆる市民の教育と労働の質を向上させることが重要である．	家事労働や建設現場不法移民労働者に対する雇用環境や労働条件違反の労働問題の支援と調査研究実施．不法移民の強制送還問題，ドリームリソースセンター		州立大学の調査研究センターで，2002 年に中米系移民コミュニティの中心に位置する公園のすぐ目の前にセンターを開設．
M 団体	1998 年	グアテマラ・マヤ先住民の権利回復と擁護	マヤ先住民の日常生活や緊急時の支援を組織化．グアテマラ先住民の土地権利回復アドボカシー．		団体代表はマヤ先住民で，グアテマラ紛争の政治難民．同胞のマヤ先住民と 1998 年に団体創設．

出典：フィールド調査で訪問した団体・機関への聞き取りおよび資料をもとに筆者作成

生み出し，衣服産業部門も拡大したことにある．産業の再編成によって，給料のよい熟練職種は減少したが，ハイテク産業と衣服産業では，「スウェット・ショップ」と呼ばれる低賃金の未熟練・半熟練の雇用が大幅に増大した．ハイテク産業における組み立てライン職種および縫製工場での雇用は，低廉の労働力需要を増大させ、労働組合に組織化されていない移民と女性が雇用されていった（Sassen, 1988 = 1992）．

政治的には，元々保守的な土地柄であったロサンゼルスで，アジア系やラティノ，アフリカ系アメリカ人団体や組合指導者の支持を集めたトム・ブラッドリー（Tom Bradley）が 1973 年に黒人初のロサンゼルス市長に当選したのを契機に，次第にメキシコ系やラティノの政治的プレゼンスが高まっていった（Chinchilla, Hamilton, and Loucky, 2009）．こうして 1980 年代までに，アフリカ系アメリカ人やラティノ，他のエスニック・グループ，革新的リベラル派などがロサンゼルスで政治的な地位を獲得していくことになる．

他方，中米諸国では寡頭勢力が政治と経済を独占し，貧富の格差が拡大したが，1970 年代，独裁政権と反政府勢力との間の武力闘争が激化すると，ゲリラに協力的と見なされた住民や先住民が政権側による攻撃や虐殺の対象となった．1970 年代後半以降，中米紛争下の迫害を逃れて，学生や組合指導者，宗教関係者ほか多数の避難民が南カリフォルニアに流入してくるようになった．そして，先にアメリカに到着した人々は，後続の避難民の救済と連帯活動に深く関わっていくことになる．とりわけ，1980 年代になるとエルサルバドルやグアテマラからの避難民が急増した．

この時期ロサンゼルスにたどり着いた中米系移民や避難民の多くは，伝統的にアメリカへの玄関口で，文化的になじみがあり，家賃の安いアパートや仕事が見つけやすいラティノ・コミュニティであるウエストレイク地区に定住していった．ウエストレイクにはエルサルバドルやグアテマラのレストランやマーケット，パン屋ができ，故国の懐かしい味を提供した．また，祖国に迅速かつ確実に手紙や小包を配達できる急送宅配業サービスや中米諸国の旅行代理店などが事務所を構えた（Hamilton and Chinchilla, 2001: 53–39）．

1990 年代初めには，ウエストレイクは住民の生活圏と売春婦や麻薬密売人が混在するロサンゼルスでは最も治安の悪い地区の 1 つになっていた．地域内の高校のラティノの生徒の退学率は非常に高く，とりわけ，祖国での暴力や身内の殺害を体験したエルサルバドルとグアテマラ出身の若者たちは，異国の地で生活するのに必死な親の監視が行き届かず，ギャング団を結成したりギャングのメンバーになっていった．このような地域コミュニティの荒廃と社会問題の解決に積極的に取り組んだのが，移民たちが毎週末通っていたカトリックやプロテスタントの教会であった．これらの教会は，スペイン語によるミサや識字教育，カウンセリング，難民支援など各種のプログラムを提供し，中米系移民コミュニティを組織する主要な役割を担った．また，難民や移民たち自身も教会や弁護士らと協働し，避難民や移民の人道支援のための団体を設立していった．

4. 調査結果とその解釈

4.1 ロサンゼルス市の人種民族別構成

表２　ウエストレイク・コリアタウンの人種民族別構成（2010）

	計	白人（ヒスパニック除く）白人	黒人	アメリカ先住民	アジア系	ハワイ・太平洋諸島系	他の人種	2 つ以上の人種	ヒスパニック
ウエストレイク（人）	56, 934	2, 680	2, 501	1, 099	9, 419	118	23, 782	3, 124	41, 965
%	*	4.7	4.4	1.9	16.5	0.2	41.8	5.5	73.7
コリアタウン（人）	45, 767	2, 106	1, 786	437	12, 924	38	14, 946	2, 263	28, 788
%	*	4.6	3.9	1	28.2	0.1	32.7	4.9	62.9

* 重複してカウントされている人種民族があるので合計は 100% を越える．

出典：City of Los Angeles Neighborhoods Population & Race, http://www.laalmanac.com/population/po24la.php, 2017 年 5 月 20 日アクセス

表 2 は，ウエストレイクおよびコリアタウン地区の人種民族別構成を表す．ウエストレイク，コリアタウンとも一番多いのがヒスパニックである（各 74%, 63%）．ヒスパニックの下位グループ（メキシコ系，サルバドル系，グアテマラ系等）の人口構成は把握できていない．その理由は，人口センサスでは人種カテゴリーが使用されており，ヒスパニックは人種ではなく民族とされ，出身国別の下位集団のデータがないことと，現実に非常に多くの非正規滞在移民がおり彼らの数を正確に把握することは事実上困難であることによる．

4.2 移民に関わる社会関係ネットワーク

図 1 は，中米系移民たちに関わる社会関係ネットワークの概念図を表したものである．

移民は，まず家族，親戚，友人らと強固なパーソナルネットワークを築いている．さらに，そのパーソナルネットワークを支えるものとして，フォーマルなネットワークとインフォーマルなネットワークがある．フォーマルの代表的なものは, 学校, 教育機関である．インフォーマルでは，支援団体や教会，病院が大きな役割を果たしている．以上が移民システム論で指摘されているミクロ構造と考えられる．興味深い点としては，日々の生活を支える生活施設，美容院やコインランドリー，宅配業者なども移民コミュニティのネットワークを構成している．しかし，これらはどちらかというと，メソ構造に近いと考えられる．

4.3 ロサンゼルスの移民と教育機関

フォーマルなネットワークの代表として教育機関が挙げられる．調査を行ったのは，公立の小学校 2 校と高校 1 校，カトリック教会付属の小中学校 1 校である．児童生徒の人種・エスニック構成はウエストレイク・コリタタウン地区住民の構成を反映している．2016 年時点，E 小学校には在籍者 823 人中ラティノが 94% を占め，「英語学習者（English learners, EL 生徒）」[3] は 73%，内 99% がスペイン語を母語としていた．C 小学校は本稿対象地区の北西の端に位置し，ラティノと韓国系住民が混在する地域である．2016 年度，在籍者数 513 人中ラティノ 49%，アジア系（大半が韓国系）39% でこの二つのグループで 88% を占める．EL 生徒については，小学校段階としては比較的少なく 44%（スペイン語を母語とする者 56%，韓国語を母語とする者 26%）である．2016 年度，B 高校には 994 人在籍し（内ラティノ 85%），EL 生徒が 41% である．これら 3 つの学校は，EL 生徒に対して二言語教育プログラム [4] を提供している．

I 小中学校はカトリック教会付属で，「西部地区私立学校大学協会（Western Association of Schools and Colleges）」[5] の認定を受けている私立学校である．児童生徒の正確な人種・エスニッ

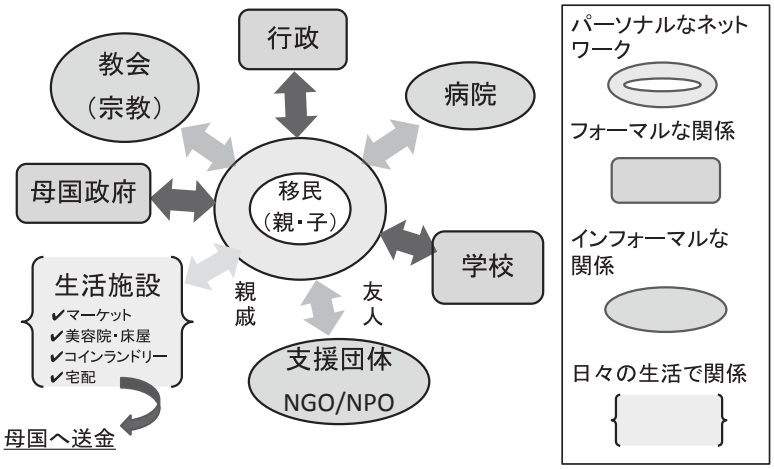

図 1　移民たちに関わる社会関係・ネットワーク　筆者作成

ク構成は入手できていないが，訪問した際の印象では大半がラティノ系であった. 国語（英語イマージョン）やコンピューター学習を重視しており，児童生徒は週3回の祈りの時間, 毎月の学校ミサ，キリスト教の奉仕活動に参加する．ほぼ100％の子どもが奨学金を獲得し高校に進学する．卒業生の90％が大学に入学を許可されている．

公教育は子どもがアメリカの言語や文化を修得していく社会化の役割を担うと同時に，親にとってはバイリンガルの教師やコーディネータからもたらされる諸々の知識や情報がアメリカの教育システムについての理解を助ける重要な機関となっている．

4.4 ロサンゼルスの移民と非営利団体

インフォーマルなネットワークとして，移民支援団体や教会，病院なども中米系の難民や移民の救済・定住促進に大きな役割を果たしてきた．とりわけ，そのような場を介して先に移住した移民が同胞の移民に渡米前から移住手段やアメリカ到着後の生活全般についての情報を提供していることは，移民システム論で指摘されている連鎖移民の事例と考えられる．

P団体は，ホスト社会の教育制度に関する知識に乏しい親たちに，教育予算を含めたカリフォルニア州の教育施策についての情報を提供し親たちの意見を吸い上げることで，親たちをエンパワーしようという目的で活動している．同団体は，ロサンゼルス全域の低～中所得層のアジア系，アフリカ系，ラティノ出身の子どもたちの教育達成向上を目標に，保護者組織が連携してその時々に共通の教育政策課題について協議するために始まった．2014年時点で，17の保護者組織や団体が加入し月1回会合を開いていた[6]．

1983年に，エルサルバドルの政治難民の安全を確保することを目的にロサンゼルスで設立されたのがC団体で，本団体はアメリカで中米系移民最大の人権擁護団体に発展した．団体設立の目的として，C団体理事は「内戦を逃れた避難民の救済と支援を主な使命としていました．同時に，中米諸国の内戦およびアメリカの介入を終結させることを目的に活動を行ってきました．ほぼ10年間は, これらの目的で活動を続けてきました」[7]と述べていた（小林，2015: 197）．このように団体設立当初の使命は，エルサルバドル内戦の終結と戦火を逃れてきた難民の救済および支援であったが，1992年の内戦終結と，同年発生したロサンゼルス暴動により，活動目的は移民制度改革や若者支援にシフトしていった．

> エルサルバドルの難民たちは，内戦が終結したら皆祖国に帰ることを望んでいましたが，内戦終結後，大半は帰国しませんでした．このコミュニティに居を構え10年経過するうちに，難民たちは結婚して家庭を持ち，子どもを生み育てるようになりました．ここで家族を作ることで，帰国の現実性がしだいに遠のいていったのです（C団体理事，Mさん，女性）．

彼らがアメリカに来たのは，祖国での暴力や政治的迫害から逃れるためであった．やがて紛争が終結したら帰国することを願っていた難民たちであったが，避難先のアメリカで長い年月を過ごす間に，家族の生活基盤ができ，もはや帰国は現実的な選択肢とは考えられなくなっていたのである．もう一つの出来事，ロサンゼルス暴動について同理事は次のように語った．

> ロドニー・キング判決を発端として，ロサンゼルスで暴動が発生しました．暴動は（中略），南ロサンゼルスだけの問題だという捉えられ方をされていましたが，現実にはラティノ・コミュニティやコリアン・コミュニティにも暴動が波及し甚大な被害がでました．コリアタウンの大半の商店が放火されました．（中略）暴動直後，コミュニティの清掃活動と再建に精力的に取り組むようになりました．ロサンゼルス暴動の真実を伝えるために，多くの政治的運動に参加するようになり積極的に活動を行いました（C団体理事，Mさん，女性）．

内戦終結とロサンゼルス暴動を経てC団体の使命も変わってきた．先述のように，現在は難民救済からラティノ・コミュニティ住民の生活支援

に活動の重点をシフトをしている．例えば,「ユースセンター（Youth Center）」では，低所得家庭の子どもの大学入学と卒業を支援している．「ユースセンター」の支援を受けた若者は，地域に根ざした草の根の政治運動について学ぶ 6 ヶ月の研修を受け同団体の活動に参加していく．「ペアレントセンター」では，P 団体と連携したプログラムで，親たちがロサンゼルスの教育制度に対する知識を習得し，自分の子どもの教育について積極的に参加できるようエンパワーしている．市民権取得を目指したクラスでは，実際に帰化テストの問題を解きながら筆記試験合格を目指す．他に移民問題専門の弁護士による法律相談などがある．M さんはなかでも最も力を入れている活動について次のように述べている．

> （最も力を入れているのは）リーダーシップ育成プログラムです．（中略）コミュニティの中で若者をリーダーとして育成するためには，若者は学校を卒業している必要があり，大学に行く必要があります．そのために放課後学習教室やサマー・プログラムなどを提供して彼らを支援しています．彼らが大学入学に必要な申請手続きを手助けしたりします．最終的には，人々を「組織」することに関わることで，リーダーの育成につながるのです（C 団体理事，M さん，女性）．

C 団体は一度活動拠点を移転しているが，移転に必要な費用は，アルコ財団およびロサンゼルス市の助成金を得て，転居先の建物の修繕費用は 5 年間の資金集めキャンペーンで賄ったという．

エルサルバドル難民支援を目的に，1981 年に全米ではじめて創設されたのが E 団体である．E 団体は，移民にアメリカ市民権取得の申請方法や政治的庇護（asylum）手続きの手伝い，「Deferred Action for Childhood Arrivals, DACA」[8] の支援等の法律相談サービスを行っている．相談内容は，主に不法入国して政治亡命を希望しているケースや家庭内暴力，犯罪被害のケースなどがあり，利用者数は週にだいたい 50 人～ 100 人だという [9]．1983 年に，世界教会協議会（World Council of Churches）のキリスト教医療委員会（Christian Medical Commission）から助成金を受けて R 診療所を設立している．R 診療所は非営利の医療機関で,「保健医療は人権である」という理念のもとに，無保険者に対しても歯科，精神保健を含む幅広いサービスを提供している．

H 団体は 1986 年に設立された．アシスタントの A さんによると，移民のなかには「1986 年移民改革・管理法（Immigration Reform and Control Act of 1986, IRCA）」[10] でアムネスティ（amnesty）の対象となっても，申請の仕方や必要書類の書き方の知識がないために申請をあきらめたり，申請したものの書類の不備で却下される人たちが多くいた．そこで，アムネスティ申請の手助けをすることを目的に，教会の司祭や弁護士，大学教授などによって H 団体が創設されたという [11]．団体設立当初は, 様々な団体・組織の「連携（coalition）」を重視してしたが，その後活動内容が広がっていった．現在，弁護士による法律相談，DACA 更新手続きサービス，政策アドボカシーの推進による移民の人権擁護，有権者登録を促すための啓発などを行っている．コミュニティ啓発活動では，政府の政策が住民にどのような影響を及ぼしうるのかについて, 教会や大学, 学校の保護者会，スーパーマーケットなどを訪問し説明会を開き情報を提供する．オープンドア・ポリシーを採用しており，支援を必要としている人には誰にでも開かれている．利用者は主にスペイン語話者であるが，アジア系やアフリカ系（カリブ海，南アメリカなど）などもいる．さらに，誰でも無料で質問し情報を得ることができるホットラインも開設している．H 団体はカリフォルニア全域に 5 つのオフィス（ロサンゼルス本部と 4 つの支部）を持っており，月に 1 回全体会合が開かれる．また，カリフォルニア大学ロサンゼルス校（University of California, Los Angeles, UCLA）やカリフォルニア州立大学ノースリッジ校，カリフォルニア州立大学ロサンゼルス校，ロサンゼルス市内のコミュニティカレッジや高校に学生組織があり，組織の活動を通して移民学生どうしのネットワークが構築されているという．

U 団体は，UCLA の調査研究センターを兼ねており，週末になるとウエストレイクの住民の憩

いの場となる大きな公園の目の前に，2002 年にセンターが開設された[12]．州立大学の組織ということもあり，「公立大学は市民のためにあり，あらゆる市民の教育と労働の質を向上させることが重要である」との理念のもとに活動を展開している．活動内容と特徴は，主に家事労働や建設現場などで働く非合法移民労働者に対する雇用環境や労働条件違反の労働問題を中心に支援や調査研究を行っている．法律相談サービスなどの直接的な支援は行わず，ワークショップの開催を通して移民労働者が自分の権利について理解する手助けをしている．ドリームリソースセンター（Dream Resource Center）は，移民若者の高等教育への平等なアクセスを推進しリーダーシップを育成する活動を行っている．

ウエストレイク・コリアタウン地区で活動を行っているエスニックな人権擁護団体は，サービスの対象者を特定の人種民族集団に限定していないものが多いが，特定の民族集団の権利擁護を目的に活動を行っているところもある．M 団体はマヤ先住民族の権利回復と擁護を理念として掲げ活動している．代表の C さんは，1993 年にグアテマラから政治難民としてアメリカにきた．C さんは，1996 年にロサンゼルスで「兄弟姉妹たち（brothers and sisters）」[13] と出会い，彼らと一緒に先住民の権利擁護の団体創設の計画を立て、2 年後の 1998 年に団体を立ち上げたという[14]．C さんは団体の活動内容について次のように語った．

> 私たちは他の団体のように法律サービスや教育サービスは行っていません．私たちは委員会を開いたり，緊急時に誰か支援を必要としている人がいると，支援を行うために組織化するのです．誰かが亡くなった時や病気になった時，事故にあったとき，アリゾナやテキサス，どこでも．人が国境を越えるときに道に迷ったときの支援，これが私たちが最も力を入れている活動です．また，先住民の権利擁護のアドボカシーも行っています．私自身が国連のフォーラムにも参加しています．（中略）さらに，私たちは，グアテマラの問題について国連が関心をもつよう働きかけます．なぜなら，私たちはここにいますが，私たちの家族，祖母や父，母，そして家族全員は故国に残したままだからです（M 団体代表 , C さん，男性）．

C さんが語るように，コミュニティから死亡者が出たときに遺体を祖国に移送するための資金集めや実際の手続きを行う M 団体の活動範囲と内容は，グアテマラ・マヤ先住民の緊急時支援に限定されている．グアテマラのマヤ先住民は 21 のマヤ語系の言語があり，それらがスペイン征服以前の政治境界を反映した数十の方言に分かれている（岩倉・上村・弧崎・新川，1994）．共同体を中心にしたアイデンティティをもつエスニック集団の数は数百にのぼり，固有の伝統や習慣，文化が守り継がれてきた．そのような歴史的文化的背景をもつロサンゼルスに住むマヤ先住民は，固有のマヤ語系言語を日常語として使用し，スペイン語や英語を話せない人も少なくない．マヤ先住民同士でも言葉が通じないので，コミュニティで緊急事態が発生した場合には，M 団体のようにマヤ先住民同士のネットワークを活用し組織化する素早い対応が重要なのであろう．

4.5 ロサンゼルスの移民と教会

アメリカ社会では，歴史的に教会が慈善団体の役割を果たし新来の移民や難民を支援する中心的な存在であった（Kotin, Dyrness, & Irazabal, 2011）．F 教会は，1877 年に女性参政権獲得運動を長年続けてきたセェヴァランス（Severance）夫妻によって設立された．1970 年代以降，中米紛争を逃れてロサンゼルスに多くの避難民が辿りついた当時のことを F 教会組織の傘下にある非営利組織 U 団体の創設者の 1 人 R さんは以下のように語った[15]．

> エルサルバドルで内戦が激しくなり，ほぼ同時期にグアテマラで恐ろしい圧政と集団虐殺が起きると，この教会は建物の地下を避難民の避難場所として開設しました．（中略）夫婦と娘，その娘はこの国で生まれました．父親はエルサルバドルで議員をしていたので政治的庇護を与えられ合法的な身分でしたが，妻はそうではありませんでした．それで，彼らは強制送還を恐れてこの教会で

暮らしていました.（中略）この家族はここで6週間暮らしていたと思います．ここに来る避難民の権利を擁護することを市民に促すために彼らの置かれた苦境を伝えるという意味もありました．開かれた社会の価値，そして抑圧された人々に支援の手を差し伸べることは私たちの責務だったのです（U団体，Rさん，女性）.

Rさんによれば，中米紛争避難民の救護・救済は教会の使命であり，実際に慈善活動を実際に担っていたのは教会付属のU団体であった.

その後，1992年にウエストレイク・コリアタウン地区でロサンゼルス暴動が発生すると，この地域の援助のために教会組織からU団体に資金が注がれるようになり，その資金の一部を無料食料配給のために使用しました．当時算数学習プログラムもありましたが,十分ではありませんでした．そのうち，ロサンゼルス西方にあった教会の所有地を売っておよそ50万ドルの資金ができると，その資金で私たちは社会福祉サービスを拡張していくことを決めました（U団体，Rさん，女性）.

現在もU団体では，教会施設内で毎週土曜に地域住民への無料の食料配給サービスや子どもの学習支援などの慈善活動を継続している.

4.6 移民支援団体ネットワークとその役割

以上，ウエストレイク・コリアタウン地区における移民の社会関係ネットワークについて，主として中米系移民たちに関わる団体・組織を取りあげてきた．本節では，総括としてこれまでの議論を踏まえて，調査対象地域の移民の社会関係ネットワークの特徴を描き出す．また，移民システム論で主張されてきた知見が本研究において，どの程度当てはまるかを論じていきたい.

まず，組織団体の活動内容であるが，それぞれの団体が得意とする領域や特に重点を置いている分野があることが見受けられた．例えば，ウエストレイク・コリアタウン地区に暮らす非合法移民の問題がある．先述のように，1970年代から80年代，ロサンゼルスの玄関口として，ウエストレイク・コリアタウン地区には非常に多くの非合法の中米系政治難民や経済移民が到着した．IRCAの成立は，アメリカ社会の非合法移民問題を顕在化させたが，アムネスティの条件を満たす移民たちの申請手続きの相談に乗ったのがH団体であった．他にもC団体やE団体が移民の市民権取得のための弁護士による法律相談を行った．特に，C団体は帰化のための試験問題の対策講座を設けるなど，非合法移民の正規化を重要視していることがわかる．市民権取得の他に，近年は，移民の若者のエンパワーメントに活動をシフトする団体が目立つ. C団体，E団体，H団体，U団体は，若者の教育支援やDACAの法律相談サービスを提供している．とくに，C団体はユースセンター，U団体はドリームリソースセンターのそれぞれの活動，H団体は大学生や高校生の学生組織によるネットワークづくりを通じた支援を行っている.

U団体が特に重点を置いているのが，移民労働者の問題である．建設現場や家事労働，縫製工場などで移民たちが不当な扱いを受けていないか労働現場を調査研究し，結果を冊子として発行したり，啓発活動を行っている．M団体は，グアテマラ・マヤ先住民を対象とした支援，とくに緊急事態への対応に特化している．また，R診療所のように医療や歯科，精神保健を含む幅広いサービスを無保険者にも提供している非営利の医療機関もある．団体の個々の活動内容は重複する部分があるものの，全体としてはそれぞれの団体の設立経緯や目的によって，団体の特殊性や得意分野があり，ある程度の棲み分けが見受けられた．ウエストレイク・コリアタウン地区においては，これらインフォーマルな団体・組織の社会関係ネットワークが，ホスト社会での中米系移民たちの生活を支える重要な役割を果たしていることが明らかになった.

それでは，異なる団体・組織間のネットワークはどの程度形成されているのだろうか．調査結果から，移民支援団体間の連携協力があることが見えてきた．団体間で相談者に対する情報交換をしたり，支援内容によっては自分の団体で対応が難しい場合には，他団体を紹介したりしている事例があった．例えば，H団体のAさんによると，

C 団体や地域の組合，U 団体，地域の教会と協働し定期的に会合を開いているという．法律相談サービスについては，他の団体と曜日が重ならないようにサービスを提供したり，ある団体が閉まっている日は他の団体への訪問を勧めているという．さらに，E 団体の S さんによれば，「自分たちが扱うのは移民の市民権に限定しており，労働問題は取り扱わない．もし，労働問題についての相談があった場合には，その問題に対応している団体を紹介する」と話していた．また，M 団体の C さんは，「M 団体は法律相談サービスを提供していなので，コミュニティのマヤ先住民の誰かが法律相談が必要な場合は E 団体を紹介する．なぜなら私たちが M 団体を立ち上げるときに，E 団体は自らの建物内に小さなオフィスを用意してくれたから」と語った．これらのことから，団体・組織間のネットワークは形成されているものの，団体間の関係性はそれぞれ異なることが推察された．

支援の対象者については，どの団体についても，基本的に相談窓口は誰にでも開かれているが，現実には対応言語がスペイン語だとスペイン語話者のラティノが大半を占めることになる．さらに，団体によって，職員・スタッフにメキシコ系が多い場合はメキシコ系，団体設立の経緯が中米紛争の解決と難民救済であった場合には，エルサルバドル系やグアテマラ系の相談者が多いという特徴も窺えた．

5. 結びにかえて

本研究では，ロサンゼルス市ウエストレイク・コリアタウン地区における中米系移民をとりまく社会関係ネットワークを構成する諸機関・団体について，移民システム論を援用して，移住の過程を促進するミクロ構造の観点から論じた．今後の課題として，移民の側に焦点を当て，彼らの社会関係ネットワークの利用状況や受けとめ方などについても検討していきたい．

注

1）「ヒスパニック」がかつての宗主国スペインとの結びつきを強調する呼称であるのに対し，「ラティノ」はラテンアメリカにルーツをもつものという意味で使用されるようになった（牛田，2010）．

2）ラテンアメリカからの移民が急増した原因として，すでにアメリカ市民あるいは永住権保持者の身内を頼って移住する人が増えたことと，正式な許可証をもたずに入国する非合法移民が増えたことによる．

3）英語学習者とは，英語が第一言語ではない児童で英語を学習している者のことである．

4）EL 生徒に対する二言語教育プログラムは，児童の母語を教授言語とする場合や英語を教授言語とする指導プログラム，生徒が英語と自分の母語の双方に熟達することを目指すクラスなど種々のプログラムがある．

5）全米 6 つの地区にある初等中等教育，大学の学校認定機関の一つ．西部地区はカリフォルニアを含む太平洋諸島を範囲とする．

6）2014 年 8 月 20 日，プロジェクトディレクター A さん（女性）へのインタビューによる．なお，本稿でインフォーマントは，役職と性別だけ書き出し，名前はすべてアルファベットで表記した．

7）2013 年 8 月 23 日，C 団体でのインタビュー．

8）DACA とは，2012 年 6 月にオバマ前大統領が大統領令で導入した移民救済措置で，幼少期に親に連れられてアメリカに来て，そのまま暮らす不法移民の若者を条件が満たせば強制退去の対象としない．条件とは，2012 年 6 月時点で 31 歳未満，16 歳になる前にアメリカに来た，通学中や高校を卒業，米軍や沿岸警備隊から名誉除隊を受けたなどのいずれかで，2 年間は強制送還の対象としない．

9）2017 年 9 月 5 日，E 団体 CEO の S さん（男性）へのインタビューによる．

10）IRCA とは，1986 年 11 月 6 日に制定された「1986 年移民改革・管理法」のことである．その目的は非合法移民を減少させることであり，改正のポイントは，1982 年 1 月 1 日以前に不法にアメリカに入国し，それ以降継続してアメリカに不法滞在している者にアムネスティを与え合法的な身分が付与することである．また，過

去 1 年間に 90 日以上アメリカの農場で季節農業労働者として就労したことを証明できる者に正規滞在の身分が与えられた．他方で，非合法移民と知りながら雇用した事業主を処罰することが盛り込まれた．IRCA の影響は絶大であった．1992 年の終わりまでに，270 万人以上に合法的な滞在資格が与えられたが，そのうち，およそ 200 万人がメキシコ人であった（Alba and Nee, 2003: 178–189）．

11）2017 年 9 月 8 日，H 団体アシスタントの A さん（女性）へのインタビューによる．

12）2017 年 3 月 7 日，U 団体 V 教授（男性）へのインタビューによる．

13）ここでいう「兄弟姉妹たち」とは，実の兄弟姉妹ではない．マヤ先住民のならわしで，「同胞のマヤ先住民」のことをこのように呼ぶという．

14）2017 年 9 月 6 日，M 団体代表 C さん（男性）へのインタビューによる．

15）2015 年 8 月 28 日，U 団体創設者 R さん（女性）へのインタビューによる．

参考文献

Alba, R., and Nee. V.（2003）. Remaking the American Mainstream: Assimilation and Contemporary Immigration. Massachusetts: Harvard University Press.

Castles, S. and Miller, M. J.（2009）. The Age of Migration: International Population Movements in the Modern World. New York: Palgrave Macmillan.（= 2011，関根政美，関根薫監訳　国際移民の時代第 4 版，名古屋大学出版会．）

Chinchilla, N. S., Hamilton N., & Loucky, J.（2009）. The Sanctuary Movement and Central American Activism in Los Angeles. Latin American Perspectives, 36（6），101–126.

Hamilton, N., and Chinchilla, N. S.（2001）. Seeking Community in a Global City: Guatemalans and Salvadorans in Los Angles. Philadelphia: Temple University Press.

岩倉洋子，上村英明，弧崎知己，新川志保子（1994）．先住民族女性リゴベルタ・メンチュウの挑戦，岩波ブックレット NO.342.

小林宏美（2015）．「ヒスパニック」を通してみるアメリカ社会，宮島喬，佐藤成基，小ヶ谷千穂（編）国際社会学，有斐閣，pp.184–200.

Kotin, S., Dyrness, G. R., & Irazabal, C.（2011）. Immigration and integration: religious and political activism for/with immigrants in Los Angeles. Progress in Development Studies, 11, 4, 263–84.

Massey, D., Alarcon, R., Durand, J., and Gonzalez, H.（1987）. Return to Aztlan: The Social Process of International Migration from Western Mexico. Berkeley: University of California Press.

Portes, A. and Rumbaut, R. G.（2014）. Immigrant America: A Portrait. Oakland: University of California Press.

Sassen, S.（1988）. The Mobility of Labor and Capital: A Study in International Investment and Labor Flow. Cambridge: Cambridge University Press.（ = 1992，森田桐郎訳　労働と資本の国際移動，岩波書店．）

Stalker, P.（1994）. The Work of Strangers: A Survey of International Labour Migration. Gereva: International Labour Office.（= 1998，大石奈々，石井由香訳　世界の労働力移動，築地書館．）

牛田千鶴（2010）．ラティーノのエスニシティとバイリンガル教育，明石書店 .

謝辞

本稿の執筆にあたって，アメリカ現地調査でインタビューにご協力して下さった団体関係者や個人の皆様に感謝申しあげます．

付記

本稿は，第 65 回関東社会学会大会において行った報告をもとに再構成し，加筆修正を加えたものである．また，JSPS 科研費（研究番号：26380693）の支援による研究成果の一部である．

（2017. 9. 27 受稿，2017. 11. 1 受理）